

横浜市立図書館のあり方懇談会報告書

～市民力と創造力を活かした横浜型モデル～

平成19年8月

横浜市立図書館のあり方懇談会

報告の概要

1 横浜市立図書館のあり方

国際文化都市横浜の市民力との協働を前提に、2、3で述べるサービスと管理運営を中心にして、自助・自立の精神に則った横浜型モデルの図書館づくりを目指す。

2 これからの図書館サービス

横浜市立図書館は、地域情報拠点化と課題解決機能を強化しつつ、地域図書館については、地域の特色を活かした個性ある図書館づくりを目指す。

具体の活動として、子ども読書活動の推進、学校や学校図書館との連携・支援、多文化サービスなどに努めるとともに、図書館サービスをきめ細かく展開するためにIT技術の活用、高度な付加的サービスに対する受益者負担の導入、既存施設との連携をすすめる。

3 効率的な管理運営

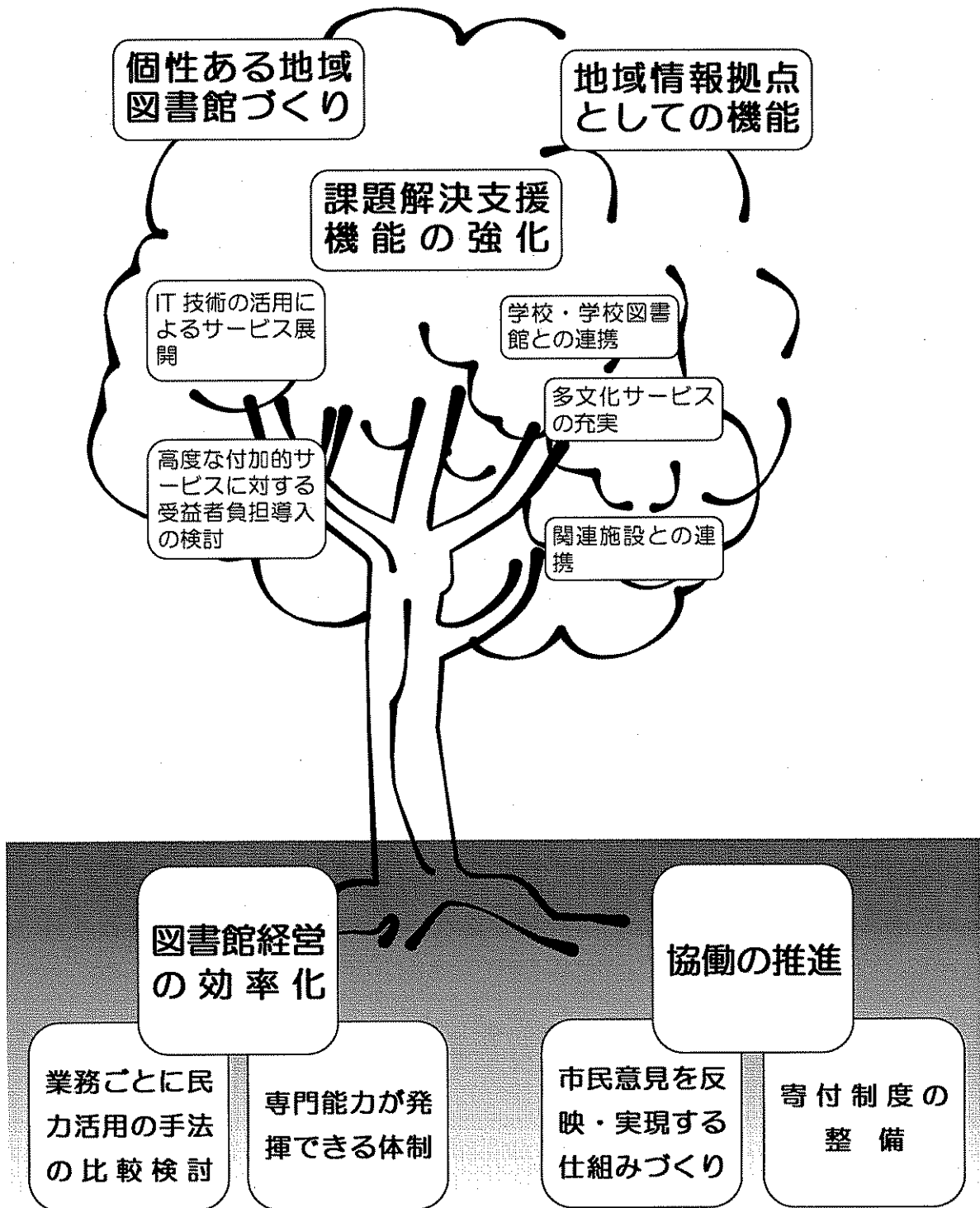
市民・企業・各種団体などが持つ創造力や実行力(=民力)を活用した運営体制に転換することを基本とし、その導入範囲や具体的手法については、比較考量が必要である。

高度な専門性を備えた司書力を活かした業務体制を確立し、機械化・省力化などにより経営の効率化を推進する。

4 市民との協働

多様で豊富な人材と活発な市民活動(=市民力)を背景とし、図書館における市民との協働を一層推進するため、ボランティアやサポーターとの連携を深める。図書館への市民参画への機会が求められており、図書館長の諮問機関としての「図書館協議会」に限定することなく、市民代表による「図書館市民会議」など市民意見が反映、実現される仕組みづくりをすすめる。また、寄付文化を育て、寄付活動を通して、市民自らが図書館の運営に参画しているという意識を持つことも必要である。

市民力と創造力を活かした横浜型モデル



はじめに

横浜市の中期5か年計画を受け、横浜市立図書館は、将来のあるべき図書館像を見据え、どのような図書館サービスを展開し、そのサービス提供はどのような経営主体のもとで考えるべきかを課題として「横浜市立図書館のあり方懇談会」が設置されました。平成18年10月からほぼ毎月1回のペースで開催し、平成19年6月の第8回懇談会まで討論を重ね、さまざまな立場の委員の間で幅広い意見交換がなされました。ここにその要点を基に「横浜市立図書館のあり方懇談会報告書 ～市民力と創造力を活かした横浜型モデル～」を取りまとめることができました。

懇談会では、厳しい財政状況をはじめとする自治体を取り巻く諸環境が、構造的に大きく変化し続けているとの認識のもとで、利用者満足度をあげるべく、概ね成熟した国際都市横浜の市民力を基盤に、自助・自立型の横浜モデルとも言うべき図書館を目指すという意見が大勢でありました。本報告書では、当懇談会で各委員から表明された意見の多くを横浜市立図書館が目指すべきサービスの重点方向、効率的な管理運営、図書館における市民協働の推進など14の提言にまとめました。ただ、当懇談会での討議は、横浜市の中期5か年計画との整合のもと、当面する5年程度の中期的な図書館のあり方の検討に限定されていたため、図書館のサービスや運営に係る基本的な構造の変革等の長期的視野にたった図書館のグランド・デザインまでは踏み込むことができませんでした。図書館のグランド・デザインについては、別の機会にその検討を譲りますが、高度経済成長期の図書館モデルの延長線上ではなく、21世紀の成熟した国際都市横浜としての横浜型の図書館モデルの創造に可及的速やかに着手されることを望みます。

今後、図書館の運営にあたり、本報告書に盛り込まれた内容や趣旨等を手掛りに、横浜市立図書館が横浜市政の一環として、市民力を涵養する生涯学習拠点であり、情報拠点として、さらには、新たな市民の創造力発現の場として発展することを期待します。そのためには、従来からの貸出し至上主義に陥っていた図書館活動を抜本的に見直し、新しい横浜モデルとも言うべき市民力に基づく自助・自立型の横浜市立図書館像が確立され、それが新時代の公立図書館像の一つの模範となることを願って止みません。

平成19年8月

横浜市立図書館のあり方懇談会

目 次

1	横浜市立図書館の現状と課題	1
(1)	横浜市立図書館の現状	1
(2)	横浜市立図書館の課題	6
2	これからの図書館サービス	9
(1)	課題解決支援機能の強化	9
(2)	地域情報拠点としての位置づけ	10
(3)	地域の特性に合わせた個性ある地域図書館	11
(4)	I T社会に即応した図書館サービス	12
(5)	子どもの読書活動の推進とさまざまな連携	14
	ア 子どもの読書活動の推進	
	イ 学校との連携	
	ウ 大学・研究機関・専門機関との連携	
(6)	多文化サービスの充実	16
(7)	サービスポイントのあり方	17
(8)	既存施設との連携	18
3	効率的な管理運営	19
(1)	これからの図書館サービスを実現するための体制	19
(2)	経営方法の見直しと評価	21
(3)	民力の活用以外の効率的な運用の具体的な手法	22
4	市民との協働	23
(1)	図書館における市民活動の推進	23
	ア 協働について	
	イ ボランティアについて	
	ウ サポーターについて	
(2)	寄付による図書館支援の体制づくり	26
(3)	市民の意見が反映される仕組みづくり	27

資料編

資料1	横浜市立図書館のあり方懇談会設置要綱（平成19年度）	28
資料2	「横浜市立図書館のあり方懇談会」委員名簿	31
資料3	委員レクチャー概要及びレクチャー資料	32
(1)	高山委員（第1回）	32
(2)	寺田委員（第2回）	36
(3)	廣瀬委員（第2回）	39
(4)	井堀委員（第3回）	44
(5)	マリ委員（第4回）	49
(6)	伊藤委員（第4回）	54
(7)	金澤委員（第4回）	58
(8)	依田委員（第4回）	64
資料4	事務局説明資料	69
(1)	「横浜市立図書館の現状と課題」（第1回）	69
(2)	「図書館サービスの重点方向」（第2回）	71
(3)	「地域図書館の運営方法」（第3回）	73
(4)	「市民と図書館の協働」（第4回）	76
(5)	平成18年度横浜市立図書館ご利用者アンケート調査結果報告（概要）	78
(6)	提案競争型公共サービス改革制度ガイドライン	80
資料5	「横浜市立図書館のあり方懇談会」議事録（第1回～第8回）	91
資料6	横浜市立図書館のあり方懇談会傍聴要領	111
資料7	懇談会席上配付資料リスト	115